



◎本會理事會の開催

六月二十二日午後四時より、丸の内永樂俱樂部に於て理事會を開いた。内田副會長、次田、山田、松木、中川、比田、牧、池田の各理事松本、伊藤、岡田、武井、田中、佐藤、三浦、都筑の幹事出席した。内田副會長より開會を宣し、評議員會並會員總會に附議すべき事項に付き、田中幹事より詳細な説明を爲し、大正十四年度事務報告につき

(イ)調査事業 (ロ)道路叢書頒布 (ハ)地方道路改良講演會
(ニ)道路改良費豫算維持 (ホ)雜誌發行狀況 (ヘ)會員及贊助員の狀況等に關し説明する所あつた、次で、大正十四年度一般會計及特別會計決算につき款項目に涉り内容を説明し

終つて大正十五年度一般會計及特別會計歳入歳出豫算に説明を加へ希望を述べたが、二、三の修正意見あつて可決、それより次田氏の特別會員推薦のことを附議決定し、午後五時半散會した。

◎土木主任官招待會

六月二十三日から三日間内務省に開かれた土木主任官會議に列擧の爲上京中の地方土木主任官を、港灣協會と合同して二十四日午後五時帝國ホテルに招待した。

長時間に亘る會議の爲に疲れて居る主任官も幸に本會の爲に多數出席され、高田神奈川、田邊兵庫等の元老株を始め列席者百五十名の多きを占めた。

内田副會長は道路改良會の爲に公務繁多の折柄會務の執行を煩しつゝあることを深謝し、港灣協會は松波博士代表して挨拶し、大瀧港灣協會幹事、田中本會幹事から其の所管事務の執行に就いて依頼し、山田理事が食事前の時間を利用して本會の會計狀況を説明し、一同撮影の後食卓に就

いた、各自が思ふだけのことを放言して和氣藹々裡に散會したのは午後九時であつた。

◎第七回定時會員總會並評議員會

六月二十九日本會第七回定時會員總會並に評議員會を、東京市麴町區永樂町、東京銀行俱樂部に開いた、出席者は遊澤顧問、内田副會長、山田、比田、中川、木原、池田、島各理事、内藤監事、次田土木局長、市瀬内務技監、長岡中將、松岡男爵、服部金太郎、矢野恒太、矢野亮一、坂本貴族院議員、若林成明、會山親民、肥田景之、茂庭忠次郎、岡本英太郎各評議員、室田貴族院議員、古川阪次郎、根本秀之介、松本重威、岩浪光次郎以上諸氏にして各幹事が參集した。

午後三時内田副會長設けの席より本日の來會の勞を謝し會長水野氏渡歐中のため代理する旨を述べ便宜會員總會並に評議員會を併合して開會することを宣し、前年度事務の概況を演述し次で、田中幹事別項事務報告を朗讀す、次に

山田常務理事前年度經理の概況より現況に涉り尙大正十五年年度歳入出豫算及特別會計歳入出豫算の詳細なる説明あつて、二、三質問あつて原案に可決せり、十四年度一般會計決算總收入金四萬四千九十五圓二十四錢總支出金壹萬千八百十九圓三十九錢にして差引次年度繰越資金三萬二千七百五圓八十五錢（銀行預金）特別會計總收入金二萬二千四百一圓七十七錢總支出金二萬二千四百一圓七十七錢にして、特別會計歳入出とも二萬六千八百八十圓にして、前年度より三千九百八十八圓の減なり。是より内務省土木局長次田大三郎氏を特別會員に推薦することを評議員會に諮り更に會員總會にて評議員に推薦し、又評議會にて理事に推薦し、午後四時六分評議員會並會員總會を終了した、當日の事務報告は左の通りである。

大正十四年度事務報告

本期ニ於ケル事業ハ會員各位ノ援助ニ依リ幸ニ豫定ノ通り執行

スルコトヲ得タリ其ノ概況ヲ報告スルコト左ノ如シ

調査事業に關する件

本會ノ効果ヲ舉グルニハ道路改良ニ關シ必要ナル調査ノ實行ヲ先務トスルヲ以テ曩ニ調査部ノ組織ヲ變更シテ急速調査ヲ進歩スルニ努メ即チ大正十四年度事業トシテハ先ツ道路ニ關係アル法制財政及經濟ニ關スル調査ニ着手シ更ニ技術ニ關シテハ刻下ノ急務タル地方道路ニ於ケル輕易ナル路面鋪裝ノ調査ヲ開始セル外山陽道其ノ他國道改良計畫ノ調査ヲ行ヘリ尙各部ノ連絡ヲ圖ル爲調査部總會ヲ開クコト、シ今ヤ第一乃至第五ノ分科ハ各科何レモ主査選任シテ數次ノ會合ヲ重ネ目下夫レ夫レ進行中ニ在リ唯調査ノ範圍廣汎ニシテ其ノ關係スル所社會百般ノコトニ亘ルヲ以テ遽ニ其ノ結果ヲ發表スル能ハスト雖各分科共ニ銳意調査ニ努力シツ、アルヲ以テ成案ヲ得ル蓋シ遠キニ非サルヘク今後一層努力シテ之カ實現ヲ期スルニ努メントス

道路叢書頒布に關する件

道路改良事務ノ成績ヲ舉グルニハ之ニ從事スル道路職員ノ智能ヲ啓發スルノ必要アルヲ以テ曩ニ道路行政及道路技術ニ關シ第二回道路職員講習會ヲ開設セリト雖モ講習會ニ出席聽講スル能ハサリシ者ノ爲各講師ノ講演ヲ蒐錄シ道路改良叢書トシテ第一號乃至第三號及第五號ヲ發行シタリシニ幸ニ時代ノ要求ニ適合シ各號ヲ通シテ六千餘部ヲ頒布シ豫定以上ノ効果ヲ收メ得タリ今後更ニ續

刊シテ益々世上ノ期待ニ副フ所アラントス

地方道路改良講演會に關する件

客年初夏北海道ニ於ケル道路ノ改良宣傳ノ爲函館札幌、小樽、旭川、野付牛、釧路、網走、帶廣、室蘭ノ各地ニ於テ道路改良講演會ヲ開催シ、水野、内田、松木、中川、堀切、比田、島、木原各理事出席シテ講演ヲ擔當セラレシガ各地何レモ盛況ヲ呈シ之ニ動機シテ本會支部ノ設立ヲ觀ルニ至レリ由來北海道ハ到ル所天然ノ富源ヲ藏シ今ヤ第一期拓殖事業終了ヲ告ケテ正ニ第二次計劃ニ入ラントスルニ方リ本會方道路設備ノ改善ヲ唱道力説シタルハ開拓事業ノ促進ニ關シ機宜ヲ得タルノ措置タリシヲ疑ハス本會ハ更ニ同地民衆ノ要求ニ聽キ道路改良ニ關シ道廳當局ノ計劃シタル第二次拓殖事業ニ屬スル道路計畫ヲ以テ十分ナリトセス理事會ノ決議ヲ經之カ計畫ニ付内藏兩大臣ニ建議スル所アリタリ今後進ンテ益之カ促進ニ盡ス所アラントス

道路改良費豫算維持ニ關スル件

政府ノ道路改良費豫算力財政緊縮ノ爲其ノ多クヲ支出ルス能ハサルハ本會ノ常ニ満足スル能ハザル所ナルニ拘ハラズ財政當局ハ更ニ大正十五年度豫算ヲ減額セムトセリ若シ其ノ削減方針ノ實現ニ遭遇センカ既成工事ニ對スル補助ニ多額ノ不足ヲ告グ又補助ヲ豫期シテ工事ヲ施行シタル地方財政ニ至大ノ影響ヲ與ヘ延不テ道

露改良ノ機運ヲ阻止スル等其不利測リ知ルヘカラサルモノアルヲ以テ緊急理事會ヲ開キ主務省要求豫算維持ニ關スル對策ヲ議決シ顧問 澁澤子爵及内藤山田木原各理事ハ親シク大藏大臣ヲ訪問シテ建議書ヲ提出シ委曲陳情スル所アリ其ノ遂ニ前年度豫算ヲ超ユル能ハサリシハ遺憾トスル所ナリト雖全額削除ノ議ヲ阻止シ得タルハ本會ノ満足スル所ナリ

雜誌發行狀況に關する件

本會機關雜誌「道改ノ改良」ハ大正九年其ノ第一輯ヲ發行シテ以來卷ヲ重メルコト爰ニ第八ニ及ヒ殊ニ第六卷以降ハ毎月之ヲ發行シ荷モ道路問題ニ關スル事項ハ細大トナク網羅登載シ其ノ論說ヲ始メ研究事項トモ何レモ面目チ一新スルニ至レリ今後一層勵精シテ本會ノ所期ニ副ハントス

會員及贊助員の狀況に關する件

現在本會々員ハ三百二十一名ニシテ前年ニ比シ五十餘名ヲ増加シ贊助員ハ五千七百二十九名ニシテ前年ニ比シ百餘名ヲ減シタリ是レ神奈川、岐阜兩縣ニ於テ多數ノ退會者アリタルニ因ルト雖モ北海道、埼玉、福井其ノ他ノ各地ニ於テハ會員ノ増加ヲ示シ北海道ノ如キハ既ニ支部ヲ設置シ岩手、石川兩縣等從來會員ノ無カリシ各地ヨリモ續々入會ノ申込ニ接シツ、アルヲ以テ更ニ多數ノ贊助員ヲ得ルハ疑ナ容レサル所ニシテ今後益堅實ナル發達ヲ圖ラトス。

◎第五回萬國道路會議

本年九月六日から伊太利ミランに於て開かる、第五回萬國道路會議に我國より内務事務官坂千秋氏と本會幹事内務技師牧野雅樂之丞氏とが出席することになつたが、今回本部よりの通知に依ると大體左の順序に依つて會議さるゝのである。因に同會議には牧野技師が内務省土木試驗所にあつて研究した木塊鋪裝の成績に就て報告するそである、列國に劣らないやうに切望して已まない。

九月六日 月曜日

十時三十分 スフオルザー城に於て開會式。九時よりの列席會員の登簿及び書類配布の爲法科大學館に事務所を開始す。二時（法科大學館に於て）部會（第一問及第四問の討議）

第一問 混泥土道路 道路を混泥土を以て築造する場合に於ける材料使用上の進歩に關する實情

第四問 交通調査 各國に共通すべき交通量の單位

九月七日 火曜日

九時 部會（第二問及第五問の討議）

第二問「ピツミナス」及アスファルト道路使用材料例へ

ば結合劑及混凝土材等の必要な性質

第五問 交通上より見たる都市の發達と其の計劃 都市

交通取締上の進歩に關する實情

十四時（二時）部會（必要に應じ午前の部會の繼續）

十六時（四時）國際道路博覽會の視察及招待

九月八日 水曜日

九時部會（第三問及第六問の討議）

第三問 コールターピツユメン及「アスファルト」の試

驗方法に關する標準

第六問 自動車交通としての特殊道路 如何なる場合之

を必要とするや。築造者として如何なる機關を最適と

するや。財政計劃、公の基金にての助成方法、道路稅

通行及利用に關する規定、交通の安全及敏速を圖る爲

自動車道と他の一般道路との連絡及交叉方法

十四時（二時）部會（必要に應じ）

十六時（四時）視察及招待（其詳細の案内書は臨機下附

せらるべし）

九月九日 木曜日

湖上に於てミラン市の「オートストロード」(Auto stra

de) 及モンザ自動車競技場の視察

ヴアルズに於てピユリセリー技師より供給せらる、

「デジュネー」

九月十日 金曜日

十一時 結論を議決する爲會合する部會

午後 視察若くは招待

十一日土曜日及十二日日曜日の兩日は團體に別れ遊覽に

供せらるべし

十一日 土曜日

ア團體 マジュール湖

十一日及十二日

ベ團體 コーム湖

十一日及十二日

セ團體 チラノー。アブリカー

十一日及十二日

テ團體 トーナール。トラン線
にてトランテン地方
同上。

其他「I」團體は若しヴェニス市視察の登簿者に相當の人員あるときは同市を視察せんとす

十二日夜特別列車若くは専用車にてローマ市に向て出發
ミラン市、トランド市及ヴェニス市より)

十三日朝ローマ市に到着 十五時(三時) 國際會議閉會
式及カピートル宮に招待

新刊紹介

宮本武之輔君著

混凝土及鐵筋混凝土 全一冊

我が畏敬する宮本工學士が此度「混凝土及鐵筋混凝土」を著述された、君は歐米に遊ぶこと二年餘、特に佛蘭西及獨逸に滞在して混凝土工學の泰斗に師事し、研鑽を重ね昨春歸朝後は直ちに扭力論を發報して我が學會に多大の貢獻をされた、之は單に君の研究の一部で今も尙熱心に混凝土の實驗を續けられ、時々は道路の改良誌上を賑はされたことは讀者の知らるゝ通りである、此の研究の傍、寸暇を利用して少壯技術者のために混凝土の根本の理

解をなさせ度いと云ふ主旨で、著はされたのが此の本である、二十世紀の文明は混凝土の文明だと謂はれてゐる、實に混凝土の發明以來構造物は著しい發達を遂げた、然し其の理論と應用とに關しては未だ遺憾の點が澤山あり、未知の事實も餘分に存する、君は是等に對する釋義を下すと共に、鐵筋混凝土の理論、應用には全力を盡され、又初學者のためには懇切なる實例をも澤山に載せられてゐる、近時混凝土に關する著書も大分多いけれど、内容が充實して新味を加へた點に於て、此の書の右に出づるものは尠いだらう。(幹事三浦七郎)

土木試驗所報 第四號

ポートランド、セメントの硬化緩急を急進ならしむことは、各國が競つて試する所であるが、是等のものが發明されて以來日淺きが爲に、其の諸性質殊に長期の強度に就ては尙試驗の餘地がある、本局に於ては英佛獨米の四大先進國で發明されたものと、本邦製ポートランド、セメントに就て、其の性質強度の比較試驗を行つた一部分の成績を發表したものである。